

游美

- 1 松川 誠さんの作品と
作品についての言葉
- 2-3 美術鑑賞旅行
- 4 作家探訪 石村 雅幸先生
- 5 絵画講習会
会員のためのギャラリートーク
- 6 心に残る私の一点
あとがき



松川 誠 《仁王像》

2024年
油彩・カンヴァス／F80
2024年度茨城県芸術祭美術
展覧会

「ああ、どうしよう、時間が無い。先生のコメントを全部は反映できない。屋外が暗過ぎるし、室内が明る過ぎる。それに、仁王の顎がやや大きいし、首回りが少し変だ。どうしてこうなった？直せるか？それにしても時間が無い。ああ……」というのが、県展の搬入日2日目の朝だった。そんな時、高い所から「どうせへたくそなんだから、さっさと持っていきなさいよ」という、少々投げやりな連れ合いの声が聞こえてきた。で、急ぎ生乾きのキャンバスに

サインを入れ、仮縁に収めて近代美術館に着いたのがお昼前だった。だから、まさか入選するとはこれっぽっちも思っていなかった。

それにしても游美の編集者は、本紙に寄稿して頂く方の人選に相当苦労されているらしい。単純に絵画が好きというだけのビギナーから抜けられない私なんぞに、どうして表紙の原稿を依頼したのだろうか。「出来る事は断らない」が信条とは言え、本当に恥ずかしい事この上ない。(水戸市在住)